

ネスプ注射液 5 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 10 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 15 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 20 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 30 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 40 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 60 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 120 μ g プラシリンジ
 ネスプ注射液 180 μ g プラシリンジ

【この薬は？】

一般名
ダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え） Darbepoetin Alfa (Genetical Recombination)

販売名	含有量（1シリンジ中）
ネスプ注射液 5 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 5 μ g PLASTIC SYRINGE	5 μ g
ネスプ注射液 10 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 10 μ g PLASTIC SYRINGE	10 μ g
ネスプ注射液 15 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 15 μ g PLASTIC SYRINGE	15 μ g
ネスプ注射液 20 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 20 μ g PLASTIC SYRINGE	20 μ g
ネスプ注射液 30 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 30 μ g PLASTIC SYRINGE	30 μ g
ネスプ注射液 40 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 40 μ g PLASTIC SYRINGE	40 μ g
ネスプ注射液 60 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 60 μ g PLASTIC SYRINGE	60 μ g

ネスプ注射液 120 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 120 μ g PLASTIC SYRINGE	120 μ g
ネスプ注射液 180 μ g プラシリンジ NESP INJECTION 180 μ g PLASTIC SYRINGE	180 μ g

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、持続型赤血球造血刺激因子製剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、骨髄中で赤血球のもとになる細胞を刺激して、赤血球を増やします。
- ・次の病気の人に、医療機関において使用されます。

腎性貧血

骨髄異形成症候群に伴う貧血

[腎性貧血、骨髄異形成症候群に伴う貧血]

- ・この薬は、貧血症に伴う日常生活活動の支障が認められる患者さんに使用します。

[腎性貧血]

- ・他の貧血症（失血性貧血、汎血球減少症等）の人には、この薬を使用することができません。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にネスプに含まれる成分またはエリスロポエチン製剤で過敏症のあった人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・心筋梗塞の人、肺梗塞の人、脳梗塞の人または過去にこれらの疾患になったこ

- とのある人
- ・ 高血圧の人
- ・ 過去に薬物で過敏症のあった人
- ・ アレルギー素因がある人
- ・ 妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・ 授乳中の人

【この薬の使い方は？】

- ・ この薬は注射薬です。
- ・ 使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて医師が決め、医療機関において静脈内または皮下に注射されます。

腎性貧血・血液透析患者に使用する場合

[成人の場合]

	初回量	維持量
使用量	1回20 μ gを1週に1回、静脈内に注射します。 エリスロポエチン製剤からの切替 えの場合、15～60 μ gを1週に 1回、静脈内に注射します。	1回15～60 μ gを1週に1回、 または30～120 μ gを2週に 1回、静脈内に注射します。
最高量	1回180 μ g	

[小児の場合]

	初回量	維持量
使用量	1回体重1kgあたり0.33 μ g を1週に1回、静脈内に注射しま す。	1回5～60 μ gを1週に1回、ま たは1回10～120 μ gを2週 に1回、静脈内に注射します。
最高量	1回20 μ g	

腎性貧血・腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者に使用する場合

[成人の場合]

	初回量	維持量
使用量	1回30 μ gを2週に1回、皮下または静 脈内に注射します。 エリスロポエチン製剤からの切替 えの場合、1回30～120 μ gを2週に1回、 皮下または静脈内に注射します。	1回30～120 μ gを2週に 1回、または1回60～180 μ gを4週に1回、皮下または 静脈内に注射します。
最高量	1回180 μ g	

[小児の場合]

	初回量	維持量
使用量	1回体重1kgあたり0.5 μ gを2週に 1回、皮下または静脈内に注射します。(最 高30 μ g)	1回5～120 μ gを2週に 1回、または1回10～18 0 μ gを4週に1回、皮下また

	エリスロポエチン製剤からの切替えの場合、1回10 μ g～60 μ gを2週に1回、皮下または静脈内に注射します。	は静脈内に注射します。
最高量	1回180 μ g	

骨髄異形成症候群に伴う貧血に使用する場合

- ・通常、成人には1回240 μ gを週1回、皮下に注射します。
- ・この薬と他の抗悪性腫瘍剤との併用投与での有効性および安全性は確立していません。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

[腎性貧血、骨髄異形成症候群に伴う貧血に共通する注意]

- ・ヘモグロビン濃度やヘマトクリット値を測定するために定期的な血液検査が行われます。
- ・この薬の使用により、血圧上昇、高血圧性脳症があらわれることがあります。
- ・この薬の使用により、抗エリスロポエチン抗体産生を伴う赤芽球癆（せきがきゅうろう）があらわれることがあります。
- ・この薬の効果発現には鉄の存在が重要です。鉄欠乏時には鉄剤が使われることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

[腎性貧血に対する注意]

- ・この薬を使用中に高カリウム血症（体のしびれ、体に力が入らない、吐き気、嘔吐（おうと）、下痢、お腹が張る）がおこることがあるので、食事によるカリウムの摂取に注意してください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
脳梗塞 のうこうそく	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりしくくなる、突然言葉が出しくくなる
脳出血 のうしゅっけつ	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりしくくなる、突然言葉が出しくくなる

肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
高血圧性脳症 こうけつあつせいのうしょう	頭痛、早朝の嘔吐、一次的な視力障害、片側のまひ、言葉が出にくい、けいれん
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
赤芽球癆 せきがきゅうろう	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
心筋梗塞 しんきんこうそく	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷汗が出る
肺梗塞 はいこうそく	発熱、血の混じった痰、胸の痛み、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	けいれん、ふらつき、体がかゆくなる、体がだるい、発熱、疲れやすい、片側のまひ、力が入らない、冷汗が出る
頭部	めまい、意識の消失、頭痛、突然のめまい、突然の意識の消失、突然の意識の低下、突然の頭痛
顔面	顔面蒼白
眼	一次的な視力障害、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り
口や喉	血の混じった痰、言葉が出にくい、喉のかゆみ、早朝の嘔吐、吐き気、突然しゃべりにくくなる、突然の嘔吐、突然言葉が出にくくなる
胸部	しめ付けられるような胸の痛み、胸の痛み、息苦しい、息切れ、動悸
腹部	食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、突然片側の手足が動かしくくなる
皮膚	じんま疹、全身のかゆみ、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

・性状：無色澄明の液

販売名	容器の形状
ネस्प注射液 5 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 10 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 15 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 20 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 30 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 40 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 60 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 120 μ g プラシリンジ	
ネस्प注射液 180 μ g プラシリンジ	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ダルベポエチン アルファ（遺伝子組換え）
添加剤	ポリソルベート80、L-メチオニン、リン酸二水素ナトリウム水和物、等張化剤、pH調節剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：協和キリン株式会社 (<https://www.kyowakirin.co.jp/>)
くすり相談窓口
電話：0120-850-150
受付時間：9時～17時30分
(土・日・祝日及び弊社休日を除く)